

おぐに



2017

11

NO. 757

● 広報





～うんとこしょ、どっこいしょ～

おぐに保育園の園児27人が、10月11日、町原の永井博嘉さんの畑でサツマイモ掘りを体験しました。

「うんとこしょ、どっこいしょ」と掛け声をかけながら芋づるを引っ張ると、真っ赤なサツマイモが次々と顔を出し、園児たちは満面の笑みを浮かべていました。



東北初!! 県立小国高等学校が コミュニティスクールに ～地域と共にある学校づくりに向けて～

少子高齢化が急速に進行する中、高校再編に向けて募集定数の削減や学校の統廃合など、高校を取り巻く環境も大きく変化しています。本町唯一の県立高校である小国高校では、小中高一貫教育など他の高校にはない特色のある教育を展開しながら、次代を担う子どもたちの育成を図っています。さらに、今年4月には、東北地方の高校では初めて学校運営協議会制度を導入し、コミュニティスクールになりました。これまでも地域と関わりながら様々な取り組みを展開してきた小国高校ですが、コミュニティスクールとして今後ますます地域と連携した学校づくりをすすめていくことが期待されます。今月は、小国高校のコミュニティスクールの取り組みを紹介します。

県立高校を 取り巻く状況

人口減少に伴い山形県内の中学校卒業生数が平成27年度以降10年間で約1800人減少することが明らかとなっている中、県教育委員会では、県立高校の将来の在り方を検討するため、平成25年9月に「県立高校の将来の在り方検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置し多角的に検討を進めてきました。検討委員会から平成26年7月に「社会変化に対応した県立高校の将来の在り方について報告書」が提出され、この報告書と県立高校再編整備基本計画の素案に対する県民などからの意見を踏まえ、県教育委員会では、平成26年11月に「県立高校再編整備基本計画（以下「基本計画」という。）」を策定しました。

この基本計画は、市立・私

- 連携型中高一貫教育を「学科等の特殊性」と認め、当面、入学定員は現状（2学級）のままとし、本校として存続する。
- ただし、入学者数が40人程度で3年連続した場合は、その翌年度から入学定員を1学級分に減じる。

連携型中高一貫教育を行っている小国高校と金山高校への特例措置

立高校も公教育の一翼を担っていることも踏まえ、今後おむね10年間の県立高校の再編整備にかかる基本的な方向性を示したものとなっています。

また、基本計画の中で県立高校の再編整備に関する基本方針として「1学年当たり2学級の学校については、入学者数が2年連続して入学定員の3分の2に満たない場合は、その翌年度から入学定員を1学級分に減じ、更にその2年後に分校とします。ただ

町内唯一の 公立高校として

小国高校は、当初定時制高校として普通科、農業科、家庭科の3課程、生徒定員300人で昭和23年4月に開設されました。

し、この基準の適用にあたっては、学科等の特殊性や交通事業等の地域の実情に十分配慮します。」とされています。

さらに、西置賜地区の高校について平成23年3月に県教育委員会が取りまとめた西置賜地区の県立高校再編整備計画の中で、小国高校については「近隣の高校との距離が遠く、学校間の連携・交流が困難なことから、キャンパス制の導入は現実的ではないと判断し、特に配慮を要する高校ととらえ、単独校として教育内容の充実を図る。」とされています。

開設以降、林業科の設置など社会環境の変化に柔軟に対応しながら、これまで多数の卒業生を輩出してきました。

また、平成13年度に文部科学省から研究開発校の指定を受け「連携型小中高一貫教育」が始まって以降、地域文化学や国際理解教育、情報教育、キャリア教育など、変化の激しいこれからの社会を生き抜くために必要な人間力の育成に向けて、魅力と特色のあるさまざまな教育を展開してきました。

近年、小国高校の生徒数は減少傾向にあり、平成28・29年度には2年連続で入学者数が定員80人の半数を下回る状況となっています。

こうした中ではありますが、学校と地域との結びつきが、深さや地元からの入学者が多いといった環境であったことから、今年4月には東北地方の高等学校では初めて学校運営協議会制度が導入され、

コミュニティ スクールって？

コミュニティスクールとは、学校と保護者や地域のかたがたがともに知恵を出し合い、学校運営にその意見を反映させることで、協働しながら

コミュニティスクールとなり、これまで以上に地域と密接に関わり、連携しながら学校運営を行っていくことが可能となりました。

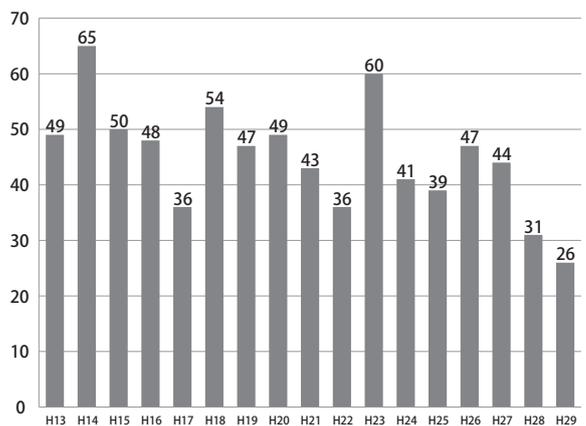


表1 小国高校入学者数の推移

東北初!! 県立小国高等学校がコミュニティスクールに 特集

ら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

コミュニティスクールを展開していくために保護者や地域住民などから構成される「学校運営協議会」が設置され、その主な役割は、「学校長が作成する学校運営の基本方針の承認」。「学校運営に関する意見を教育委員会または学校長に述べることができ

る」。「教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項

について教育委員会に述べる

ことができる」。の3つがあります。

これらを通じて、保護者や地域のかたがたの意見を学校運営に反映させることができ、地域の力で学校をより良いものにしようとする当事者意識が高まり、継続的、持続的に「地域とともにある、特色ある学校づくり」を進めることができます。

本町においては、町内各学校において、小国小学校と小国中学校が平成26年度に、叶水小中学校が平成28年度にそれぞれ学校運営協議会制度を導入してコミュニティスクールとなつていくことから、学校統合によって広域化した学校区域の諸課題や小国の子どもと各学校が抱える教育課題の解決、時代を担う子どもたちの健やかな成長のため、地域が学校の応援団としての役割を担っていく取り組みを進めています。

東北初の
コミュニティスクール

小国高校では5月23日に1回目の小国高校学校運営協議会を開催し、今年度の学校経営の基本方針などが承認されたほか、学校運営協議会の会長にはおとしまで小国小学校で校長を務めていた長沼誠さん（飯豊町）が選出されました。

また、第2回、第3回の学校運営協議会では、グループワークを通して、委員が活発に意見を出し合いながら地域としてどのようなキャリア教育ができるかやその具体的な取り組みなどについて話し合

いが進められています。

小国高校の柿崎悦子校長は「本校は、連携型中高一貫教育や地域文化化学などこれまでも地域との関わりが深い学校であったことなどから、学校運営協議会制度を導入し、コミュニティスクールとなりました。社会の発展と共に多様なライフスタイルが生まれ、社会が求める人材も変わってきています。また、全国的に子どもたちが減少し子どもや学校が様々な課題を抱えており、教員一人ひとりの負担が増えている現状もあります。こうした中で、子どもたちが地域社会と関わりながら社会の構成員として育成していくことが大変重要になっていきます。これまでも地域文化化学などで、地域の皆さんから協力をいただいています。今後はコミュニティスクールとして様々な場面で地域の皆さんの持つ技術や文化、生き方、社会規範などといった教育力を小国



コミュニティスクールの指定書を受ける柿崎校長



県立小国高等学校
柿崎 悦子 校長

特集 東北初!! 県立小国高等学校がコミュニティスクールに



小国高校で行われている地域文化学（昔話）の様子

高校に注入していただければ
と思つていきます。」と話してく
ださいました。

小国高等学校運営協議会に
は、保護者や地域住民、企業
などから委員として参画をし
ていただきながら、様々な視
点での学校運営や支援体制を
構築しています。

小国高等学校運営協議会委
員であり小国高校PTA会長
である和田敏典さん（岩井沢）
は、「小国高校は小規模校とい



県立小国高等学校PTA
和田 敏典 会長

うことでのデメリットは確か
にあるとは思いますが、それ
以上に先生が生徒一人ひとり
へのきめ細かな指導や対応を
していただいている高校だと
感じています。また、卒業後
の進路が就職や進学などと幅
広く、特に進学ではさまざま
な分野に進んでいける道が広
がっています。子どもが少な
くなる中、高校が開催するチ
ャレンジショップや学校祭な
どの行事に地域のかたに足を
運んでもらったり、町内の様々
な祭りなどに子どもたちが参
加したりしながら、地域の人
との触れ合いを深め、学校だ
けでなく地域が一体となって
子どもたちを教育するようにな
れればいいと思います。」と

話してくださいました。

また、小国高等学校運営協
議会会長の長沼誠さんは「町
の最高学府である小国高校を
頂点とした『小中高一貫教育』
の推進は、健全な児童生徒の
育成の取り組みとして、これ
まで数多くの実績と成果を積
み上げてこられました。そう
した中、小国高校は、地域の
学校として町民や保護者の期
待に応えるべく、1人1人を
大切にした丁寧な指導を展開
されています。しかし、少子
化に伴う生徒数の減少や個人
差の拡大、キャリア教育の一
層の充実が求められるなど今
日的課題も浮き彫りになって
きました。こうした課題の解
決には、学校と町や地域が協
働で取り組むことが期待され
ています。現在、学校運営協
議会ではどういった教育活動場
面でどういった連携が可能な
か、校長先生の思いを大切に
しながら、委員の皆さんで協
議をしているところです。」と

話してくださいました。

学校と地域が
教育を担う

コミュニティスクールは、
学校と地域が連携・協働しな
がら子どもたちを育成するた
め学校経営に参画するもので
あり、学校と地域、保護者が
それぞれに教育の役割を担い
ながら、次代を生き抜く子ど
もたちを育成していくことが
求められています。

町では、町内全小中学校に
導入されているコミュニティ
スクール制度を連携した取り
組みにつなげるため、新たに
小国高校を加えた4校による
合同学校運営協議会を開催し、
それぞれの学校の教育目標を
共有しながら、小国の子ども
たちをどのように育てていく
か、守っていくかなどを大き
な課題として設定し、本町の
次代を担う子どもたちの健全
な育成をめざしています。

キノコの産地化に向けた取り組み

農事組合法人小国きんたけ工房

小国町のキノコの産地化と栽培技術の継承を目指し、平成28年3月に「農事組合法人小国きんたけ工房」が設立され、今年4月には栽培キノコの基になる菌床や原木の製造・培養施設が動き出しました。施設稼働から6カ月を経過した小国きんたけ工房を紹介します。

農事組合法人

小国きんたけ工房

年3月に「農事組合法人小国きんたけ工房」が設立されました。

野生キノコの

出荷自粛

8月22日、栃木県から山形県に対して本町で採取したとされる野生キノコ「チチタケ」から、食品衛生法に基づく放射性物質基準を超える値が検出されたとの情報が寄せられました。これを受け県では、8月27日に本町から「チチタケ」の検体を採取し検査を行ったところ、2検体のうち1検体から基準値を超えた値が検出されました。このため、8月28日に県から小国町に対し『野生きのこ』の出荷自粛等について」の要請があり

ました。これにより、今シーズンから町内で採れる野生キノコについては、加工品を含めて、出荷・販売ができなくなっています。

県では制限の解除が1種類ずつになることから、ナメコやマイタケ、マツタケ、トビタケなどの11種類を対象に品目ごとに検査を実施しています。町では、1種類が基準値を超えるすべてに規制がかかるとも、現在の制度の見直しとともに、早期の出荷自粛解除に向けて山形県と連携しながら、国の関係機関などへの要望活動を展開しています。

野生キノコと

栽培キノコ

自然界に自生するキノコを野生キノコや天然キノコと呼ぶのに対し、原木や菌床に種菌を植え付けて育成したキノコを「栽培キノコ」と呼びます。栽培キノコは、原木と菌床で育てるものでそれぞれ「原木栽培」、「菌床栽培」と区別して呼ばれます。

本町での栽培キノコについては、これまで各農家がそれぞれに進めてきていましたが、キノコ生産者が高齢化する中、栽培技術の継承とキノコの産地化を目指し、平成28

農事組合法人小国きんたけ工房(佐野信次代表理事)(以下「きんたけ工房」という。)は、町内のキノコ農家など6人によって設立されました。平成28年度には、キノコ栽培の基となる菌床などの製造及び培養を行う施設を小国小坂町地内に整備し、今年から菌床や栽培キノコなどを販売しています。

菌床製造の工程は、おがくずや栄養体などをかき混ぜた後、袋詰めを行います。通常は2・5キロの大きさにしますが、きんたけ工房では半分の1・3キロの菌床も製造しています。袋詰めしたものを約100度の高温釜で殺菌し、無菌室で種菌を接種しま

キノコの産地化に向けた取り組み～農事組合法人小国きんたけ工房～



栽培マイタケ（菌床）

す。その後、種類によって異なりますが2～3カ月程度温度や湿度が完全に管理された部屋で培養し、菌床が完成します。

きんたけ工房では、1度に最大1万4400床の菌床を製造・培養することができ、施設を備えています。接種するキノコの種類によって数量は違うものの、年間生産量として約6万床の菌床を製造することができ、施設になっています。

キノコ産地を築くために

小国きんたけ工房代表理事の佐野信次さん（種沢）は、「30年以上前からたるまさ（渡邊正義さん）と2人で切磋琢磨しながらキノコ栽培をやってきました。最初は作った菌床の半分が失敗で捨てることもありました。勉強し研究を重ねてきたことで今はほぼ失敗することはありません。今回の放射能の件では、風評被害が出るだろうと市場関係者に言われましたが、小国の原木マイタケなどは町内外での評判が大変よく、むしろ生産が追いつかない状況です。今年から工房も動き出し、各地から視察に来て、関心を持っていただいています。今年は1年目ということもあり、まだ個人でやっていた時の延長線という形ですが、来年以降は工房における雇用や工房をセンターとした受注・販売

体制などを徐々に整えていきたいです。各家庭でナスやキュウリを栽培するように、『小国町の家ではキノコが栽培されている』となれば大変嬉しいです。私自身工房ができたことでキクラゲの生産量が昨年の3倍（約1トン）になりました。この工房をきっかけに町内にキノコ栽培が広がってほしいと思っています。」と話してくださいました。

また、若手キノコ生産者である渡邊拓磨さん（樽口）は、「小国のキノコ農家の栽培技術は、日本でもトップクラスでないかと感じています。その技術が継承されず、キノコ産業が衰退していくことに危機感を感じていました。技術継承を含めて工房ができたことは大変うれしく思っています。小国町のキノコは有名ですが、今はどこに注文したらよいかわからない状態です。今後は工房がその窓口として、全国にキノコを売り出し



昨年度整備した菌床製造培養施設

ていければと思います。また、これまで菌床は群馬や岩手などから取り寄せるしかなかったのですが、小国にこの施設ができたことで小国周辺の地域から多くの注文があり、地理的条件も工房の強みなので思っています。」と話してくださいました。

きんたけ工房の組合員がこれまで培ってきた技術と経験を生かし「キノコの産地『小国』」としてさらに発展していくことを期待したいものです。



国体で8位入賞

～米沢中央高校 永井桂大さん～

米沢中央高等学校3年の永井桂大さん(町原)が、9月30日から10月10日まで、愛媛県で開催された第72回国民体育大会の陸上競技に出場しました。

永井さんは、少年男子A400メートルハードルで予選を52秒54の好記録で突破し、見事に8位入賞を果たしました。

大会を終えて永井さんは、「初めて全国大会の決勝を経験して自分の弱さを感じた大会でしたが、皆さんからたくさんの応援を頂いたおかげで出せた結果でもあると思っています。今後はさらに上のレベルで挑戦し、全国の頂点を目指していきたいです。」と力強く話してくれました。



いつまでも健康に

～第42回小国町高齢者体育大会～



第42回小国町高齢者体育大会が、9月29日、町民総合体育館で開催され、町内15各地区の老人クラブが参加しました。大会では、パン食い競争やスプーンリレー、さがし物競争などが行われ、参加者たちは各種目に楽しみながら和気あいあいと挑戦していました。

森林の役割を学ぶ

～小国小5年学年行事 白い森づくり体験事業～

小国小学校5年生の学年行事である「白い森づくり体験事業」が、10月7日に行われ、児童と保護者約100人が参加しました。

この事業は、山形県みどり環境税を活用して行われているもので、植林の必要性を学ぶとともに天然林とのふれあいを通して森林に関心を持ち、理解を深めてもらおうと平成24年から小国小5年生学年行事として開催されています。

この日は、片貝地内の国有林野で置賜森林管理署のかたから森林整備の必要性などについての講話や杉の苗木を植栽したほか、小国小学校アリーナで山形県森林インストラクターである舟山功さん(松岡)が講師を務め、飛ぶ種のクラフトづくり体験などを行いました。



日頃からの感謝を形に ～小国高校生徒会がさいわい荘に学校祭収益を寄付～

小国高校生徒会が、10月12日、学校祭の収益金をさいわい荘に寄付しました。

小国高校の学校行事運営委員会で、7月22日に行われた学校祭模擬店での収益金の使いみちを話し合った結果、さいわい荘に寄付することに決まり、学校行事運営委員長の佐藤梨菜さんと副委員長の内藤さららさんがさいわい荘を訪れ、収益金28,979円を贈りました。



「いよいよ始まります」

地域おこし協力隊 のぐち たつひこ
野口 達光

10月15日、白い森交流センターりふれで「第25回北部地区いきいき、ふれあい世代交流会」が開催されました。昨年も参加させていただきましたが、相変わらずの皆さんのパワフルな姿に圧倒されながら、心強く感じました。

さて、いよいよ北部地区で「地域公共交通空白地有償運送」の実証実験が始まります。全国的には先例もありますが、山形県内では初めての試みになります。山の恵み豊かな小国町で安心して暮らし続けていくためには、交通手段の確保が欠かせません。11月の1カ月間限定の試験運行となりますが、まずは利用をして頂いて、良かったこと、改善しなければならないことをしっかりと見出して、今後の取り組みにつなげていきたいと思っております。

「舟渡獅子踊り」

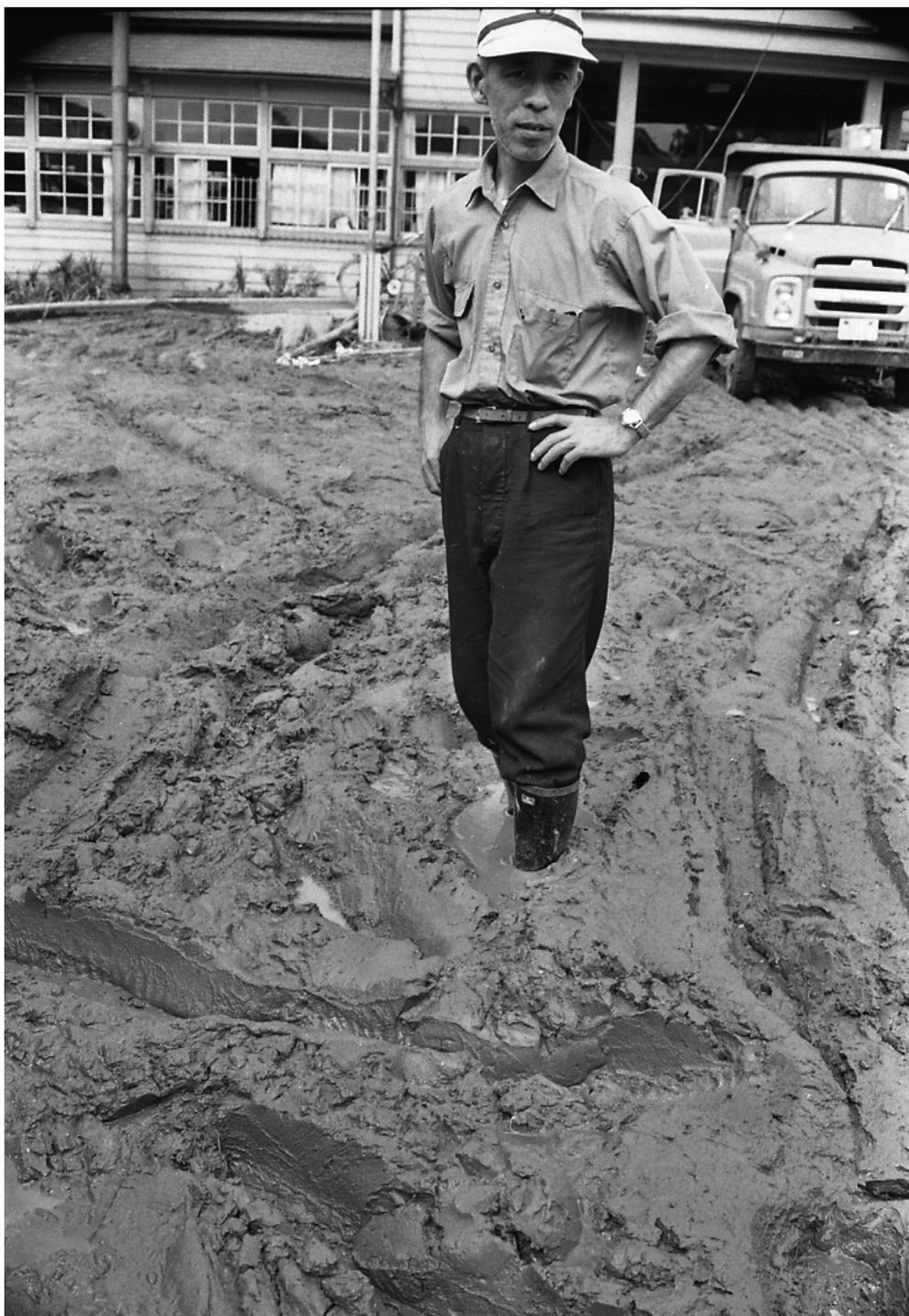
緑のふるさと協力隊 やまなか なち
山中 那智

近頃は気温も下がってきて、4月に来て「小国町寒い！」と凍えていた時を思い出します。小国町に来てもう半年以上が経ちました。毎日が充実しているのであつという間でした！

9月10日に舟渡で「舟渡獅子踊り」がありました。僕が舟渡に住んでいることもあり、協力隊としては初めて「まとい持ち」として参加させていただきました。古くから地区に代々伝わる民俗芸能で小国町の指定文化財にもなっていて、舟渡の一員として獅子踊りに参加することができたのはとても貴重な経験になりました！舟渡の獅子踊りを通して20代から60代の幅広い年代の方々と交流を持ちました！これからも様々な行事に参加してたくさんの人たちと交流していきたいです！



羽越水害から50年
災害の爪痕をたどって
その⑦



◀ 泥にまみれた旧役場庁舎前

羽越水害における本町の床下浸水以上の被害は、1380棟、被害額にして5億3159万円に上りました。

被害が大きかったのは横川沿いで小国大橋から飯綱橋周辺が広範囲に浸水被害を受け、周辺住民は水害後の泥の搬出や家財道具の清掃などに追われました。

当時清水町ですずき靴屋を営んでいた現在のそうざい清水の鈴木和夫さん、慶子さん夫妻は、「夕方5時頃に店にいた父親から呼び出されて向うと、今の中央通りはひざ下くらいの水が大橋に向かって勢いよく川のように流れ、足にあたる水が跳ねて、背負った子供に掛かるくらいでした。清水町は中央通りから流れる水が停滞している状況で、店の中はまだ大丈夫でしたが、みるみる水が入ってきて、畳などがダメになりました。幸い、近くに清水があり、壊れたものもなく3日くらいで片付けも終わりましたが、当時父親がやっていた小鳥のエサが流れたことで、数日後に窓際にヒエやアワの芽がたくさん出てきたことを覚えています。」と話してくださいました。



▲小国劇場前の道路にたまった土砂や瓦礫などを除去するブルドーザー



▲汚れた衣類等を洗う人々（清水町）



▲道路に出された濡れた家財道具（小国小坂町）



▲旧小国小学校庭にたまった泥を掻き出す小国高校生



▲家に押し寄せた泥を掻き出す人々（小芦第五町内）

白い森と山の暮らし伝承創造セミナー

#1 山の暮らしを学ぶ、考える

山菜・キノコの採取や保存、山の神への信仰に基づく狩猟…。本町には、「ぶな文化」と総称される、先人により受け継がれてきた貴重な生活文化が息づいています。これらを次代に継承し、発展させ、まちづくりに生かしていくことが重要であり、その仕組みづくりが必要です。こうしたことから、町ではこの考え方を広く発信するため、「白い森と山の暮らし伝承創造セミナー」（3回シリーズ）を開催します。

1回目は、「山の暮らしを学ぶ、考える」をテーマに東北芸術工科大学教授の田口洋美先生による講演会などを行います。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

■日 時 11月12日(日)13:30～16:30

■場 所 旧北部小中学校

■内 容

○講演 雪国・おぐににおける『越夏』と『越冬』の民族知
～先人の知恵に学ぶ災害に強い集落づくり～
東北芸術工科大学芸術学部教授 田口 洋美氏

○ワークショップ 「暮らしに息づく伝統食から保存の技術を学ぶ、考える」

■参加費 無料

■問合せ先 総務企画課企画財政室 (☎62-2264) へ

参加ご希望のかたは、上記問合せ先にお申し込みください。

西置賜農業フォーラム

秋の収穫に感謝！若者たちとのトークや西置賜の農産品等を味わうなど内容盛りだくさん。みなさまの参加をお待ちしています。

■日 時 11月17日(金)
13:30～16:00

■場 所 はぎ苑新館（長井市）

■内 容 西置賜農業賞表彰式、
若者トーク（「若者たちが語る農業への思い」管内の若手生産者）、
展示・試食（農産加工品、雪若丸新米、管内産農産物）など

■参加費 無料

■対 象 西置賜管内の農業関係者

■募集人数 100人（先着）

■申込期限 11月10日(金)まで

■申込・問合せ先

産業振興課農政農村担当
(☎62-2408) へ

小国町文化講演会

実弟ビートたけしさんとのエピソードを交えた家族の話などを楽しく講演していただきます。

■日 時 11月23日(木・祝) 13:30～
(13:00開場)

■場 所 おぐに開発総合センター集会室

■講演内容

演 題 おし
「北野家の訓え」

講 師
北野 大 氏



■入 場 無料

■申込み

聴講を希望されるかたは、準備の都合上、11月22日(水)まで小国町教育委員会にお申し込みください。

■申込・問合せ先

小国町教育委員会教育振興課
(☎62-2141) へ

白い森まるごと塾 Vol.1

「あなたの気づきが…おもてなし！」

町では、町民の皆さんとともに「白い森まるごとブランド構想」を進めていくため、地域ブランディングや小国の食材を使った料理、ソーシャルネットワークサービス(SNS)による情報発信等に関して学ぶ「白い森まるごと塾」を今後随時開催していくこととしています。

その第1回目として、「あなたの気づきが…おもてなし！」を開催します。小国町を訪れたかたがたにとっては、町民の皆さん一人ひとりがおもてなし役です。訪れた人に「小国に来てよかった!」、「また小国にきたい!」と思っただけのような町を目指して、笑顔、あいさつ、言葉遣いなど、接遇の基本を一緒に学びませんか。きっと新しい発見があるはず。奮ってご参加ください!

- 日 時 11月21日(火)14:00~16:00
- 場 所 おぐに開発総合センター
- 対 象 町民および町内に勤務しているかた
- 講 師 アスクE.S 渋谷 寿子 氏
(元JAL客室乗務員、NPO法人日本話しことば協会講師)
- 参加費 無料
- 申込締切 11月10日(金) (当日の飛び入り参加も可能です。)
- その他 手鏡またはスマートフォンを持参してください。
当日夕方から講師を交えた交流会を開催します。
◇時間・場所 18時~ 電興社寮 ◇参加費 3,000円
- 申込・問合先 総務企画課白い森ブランド戦略室 (☎87-0821) へ



除雪機械を貸し出します

大型機械での除雪が困難な歩道や生活道路等を対象に、ハンドガイド式小型除雪機械(35馬力)を貸し出します。

- 対象者 ①町に居住する2世帯以上で構成する任意団体②町長が特に認める個人または法人
- 貸出台数 5台
- 募集期間 11月1日(水)~11月17日(金)
- 貸出期間 11月下旬~平成30年3月31日(土)
- 申込・問合先 地域整備課建設管理担当
(☎62-2431) へ

秋の火災予防運動の実施について

平成29年度全国統一防火標語

「火の用心 ことばを形に 習慣に」

秋の火災予防運動を、11月9日(木)~15日(水)までの7日間実施します。

運動期間中、午前7時と午後7時に防災ラジオと防災スピーカーから火災予防に関する音声メッセージが流れます。

また、11月12日(日)午前9時から12時まで町消防団の消防自動車が出陣パレードで町内を巡回します。

- 問合先 町民税務課 (☎62-2260) または
消防署小国分署 (☎62-2154) へ

排水設備工事責任技術者登録更新のお知らせ

山形県下水道協会に登録している責任技術者で、登録の有効期限が平成30年3月31日までのかたは、現在所属している指定工事店所在地の市町村で更新手続きが必要です。

- 該当者 登録有効期限が平成30年3月31日までのかた
- 必要手続 ①登録更新の申請②更新講習会の受講
- 更新申請期間 平成29年11月1日(水)~11月30日(木)
- 申請受付・問合先 地域整備課水道業務担当 (☎62-2431) へ

羽越水害から50年、災害の記憶を次の世代に ～小国町総合防災訓練・小国町防災シンポジウム～

大規模災害の発生に備えて



小国町総合防災訓練が、10月1日、小国小学校周辺で開催され地域住民や小国町消防団など約300人が参加しました。
長井盆地西縁断層帯を震源とする大規模地震が発生したことを想定した訓練が実施され、緑町二・兵庫館・岩井沢二地区の住民が避難訓練や初期消火訓練、炊き出し訓練を行ったほか、山

形県警察機動隊と西置賜行政組合消防署小国分署による事故車両救出搬送訓練や県消防防災航空隊による救出訓練、町消防団による火災防ぎよ訓練などが行われました。

訓練には、地域の子どもから大人まで幅広い年代の住民が参加し、いつ発生するかわからない災害に備え、真剣に取り組んでいました。



水害から50年のときを経て ～近年の大規模災害から学ぶ～

羽越水害50年記念事業小国町防災シンポジウムが、10月1日、小国小学校アリーナで開催され町内外から約150人のかたが参加しました。

シンポジウムでは、飯豊山系砂防事務所の本山悟所長が、「羽越水害を契機に、これまで取り組んできた砂防事業の歩みと今後について」と

題し基調報告が行われたほか、防災・危機管理アドバイザーで防災システム研究所の山村武彦所長が「大規模災害から学ぶ、災害への備えと対応」羽越水害から50年のときを経て、今すべきこと」と題した基調講演が行われました。

また講演後には、山村氏と(有)地域環境デザイン研究所の宮原博通代表、南陽市横町地区長の川井義暉さん、水害被災経験者の渡部錬太郎さん、

町消防団長の伊藤孝太郎さん、町内在住の飛渡美紀さん、金敦子さんがパネリストとして、パネルディスカッションが行われ、防災減災に向けた備えの重要性が再認識されました。



第48回衆議院議員総選挙結果

第48回衆議院議員総選挙の投開票が10月22日(日)に行われました。小国町における各候補者並びに政党ごとの得票結果は次のとおりでした。

小選挙区選出議員選挙

投票率 76.09%

すずき のりかず	2,424 票
近藤 ようすけ	2,382 票
岩本 こうじ	252 票
無効票	66 票

【期日前投票者数】

- 小選挙区選出議員選挙 2,125人
- 比例代表選出議員選挙 2,124人

比例代表選出議員選挙

投票率 75.93%

公明党	597 票
日本維新の会	102 票
日本のこころ	30 票
社会民主党	117 票
日本共産党	226 票
幸福実現党	21 票
自由民主党	1,654 票
希望の党	1,445 票
立憲民主党	762 票
無効票	162 票

役場庁舎修繕に伴う駐車場利用制限の延長

役場庁舎修繕に伴い、8月30日から役場正面駐車場の利用を制限していますが、工事終了予定が延長になったことから、利用制限を11月24日(金)まで延長します。

皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いします。

- 駐車場利用制限 11月24日(金)まで
- 問合せ 総務企画課情報・危機管理担当 (☎62-2112) へ

町内の空間放射線量

～人体には影響のない数値です～

■10月6日(金)の空間放射線量

測定場所	測定値 (μ Sv/h)
小国小学校 グラウンド	0.04

- 問合せ 町民税務課町民生活担当 (☎62-2260) へ

入札結果情報 (平成29年9月21日～平成29年10月20日実施)

単位(円)

入札日	工事名	施行場所	工期(完了)	予定価格	落札業者	落札価格
H29.9.28	平成29年度小国町水道事業針生配水池場内法面保護工事	小渡	H29.12.15	43,927,000	大和建设運輸(株)	42,900,000
H29.10.2	平成29年度温水造成供給施設改修工事	西	H29.11.30	3,532,000	クアーズテックマシナリ(株)	3,400,000
H29.10.2	平成29年度小股ポンプ庫建設工事	小股	H29.12.15	5,560,000	安部工業(株)	5,000,000
H29.10.6	平成29年度社会資本整備総合交付金事業町道松岡大石線雪崩予防柵設置工事	朝篠	H30.1.12	21,329,000	大和建设運輸(株)	21,000,000
H29.10.10	平成29年度道の駅トイレ改修工事	小国小坂町	H29.12.15	16,143,348	安部工業(株)	16,100,000

※入札結果情報の金額は消費税及び地方消費税を含みません。

ご案内

オール西置賜就職面接会

- 日時 11月17日(金)13時30分～16時30分(受付13時～)
- 場所 タスビル2階コンベンションホール(長井市)
- 対象者 西置賜地域に就職を希望しているかた
- 事業所 西置賜雇用対策協議会会員事業所、長井公共職業安定所管内に本社または就業場所があつて、ハローワークに求人を出している事業所(45社予定)
- 内容 個別面談形式(就職を希望されるかたが自由に企業ブースを訪れ面談を行います。)
- 問合先 ハローワーク長井(☎0238-84-8609)へ
- 日時 11月15日(水)14時30分～
- 場所 川西町農村環境改善

置賜社会教育振興大会(兼)置賜地区生涯学習振興ブロック大会研修会

- センター
- テーマ 『交流』から生まれる、かわり豊かな地域社会」(川西町玉庭地区、東沢地区の実践より学ぶ)
- コーディネーター 山形大学地域教育文化学部准教授 安藤 耕己 氏
- 事例発表者
○玉庭ふるさと総合センター 活用委員会会長 楠田 博雄 氏
○東沢地区協働のまちづくり 推進会議運営委員 佐々木 賢一 氏
- 申込締切 11月8日(水)
- 申込先 小国町教育委員会 教育振興課(☎62-2141)へ
- 問合先 置賜社会教育振興会事務局(置賜教育事務所 社会教育課内)(☎0238-88-8242)へ

公式ワナゲ大会

- 日時 11月14日(火)9時30分～
- 場所 町民総合体育館
- 対象 概ね60歳以上のかた
- 内容 3ゲームの合計点で競います。
- 参加料 100円(保険料等)
- その他 当日は動きやすい服装でお越しください。
- 申込締切 11月7日(火)
- 申込・問合先 小国町老人クラブ連合会(町社会福祉協議会)(☎62-2825)へ

お知らせ

公立置賜総合病院から 面会についてのお知らせ

- インフルエンザ流行の時期を迎え、入院されている患者さんは、免疫力の低下などで感染しやすくなっています。感染予防のため流行期には、マスクの着用なしでは面会することをお断りすることがあります。また、インフルエンザの患者さんが入院されている病棟は、面会制限をする場合もありますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。
- ① 町営住宅小坂町団地 3DK 1戸(4階)
 - 家賃 所得と家族構成による
 - その他 所得制限あり
 - ② 町営住宅あけぼの団地 2DK 1戸(1階)
 - 家賃 所得と家族構成による
 - その他 所得制限あり
 - ③ あけぼの高齢者団地 1LDK 1戸(1階)
 - 家賃 所得と家族構成による
 - 対象
 - ▽世帯所得が21万4千円以下で住宅に困っているかた
 - ▽60歳以上のかたで自立した生活をおくることができ、同居するかたが配偶者または60歳以上の親族であること
 - ①②③共通
 - ◎敷金 家賃の3カ月分
 - ◎募集期限 11月10日(金)
 - ◎入居時期 11月下旬以降
 - ◎問合先 地域整備課建設管理室(☎62-2431)へ

募集

町営住宅入居者募集

11月の 保健カレンダー

1. 各健診の日程等

■4カ月児健診

- ・期 日 11月24日(金)
- ・受付時間 13:10~13:20
- ・対 象 平成29年7月生まれ

■1歳児健診

- ・期 日 11月24日(金)
- ・受付時間 13:00~13:10
- ・対 象 平成28年11月生まれ

■2歳児健診

- ・期 日 11月15日(水)
- ・受付時間 13:00~13:15
- ・対 象 平成27年3月、4月、5月生まれ

2. 場 所 健康管理センター

3. その他

母子健康手帳を持参ください。

4. 問合せ先 健康管理センター (61-1000) へ

子育て支援センターから

■11月の広場日程

広場名称	曜日	時間	申込
なかよし広場	月~金	9:30~11:30・13:00~15:30 (水・金は午後のみ)	不要
子育て講座	11月16日(木)	「ヨガ」・おぐに開発総合センター	必要

■対象者 なかよし広場 就学前のお子さんとお家のかた
子育て講座 就学前のお子さんとお家のかた

■その他 平日はいつでも子育て相談に応じています。また、白百合保育園(水曜午前)、すみれ保育園(金曜午前)でも同様の場所を設けています。詳細は各保育園にお問い合わせください。

■問合せ先 子育て支援センター(おぐに保育園内 ☎62-2330)・白百合保育園(☎62-2436)・すみれ保育園(☎62-5284)

休日当番担当歯科医のお知らせ

11月3日(金)	長井 芳賀歯科医院	0238-84-8107
11月5日(日)	米沢 もり歯科医院	0238-26-6406
11月12日(日)	南陽 桜井歯科医院	0238-43-2125
11月19日(日)	米沢 レインボー歯科医院	0238-26-1182
11月23日(木)	小国 加藤歯科医院	0238-62-2678
11月26日(日)	米沢 中川デンタルクリニック	0238-37-3311

求 人 情 報

右の表は10月20日現在でハローワークへ登録された求人のうち、小国町をおもな就業先としている求人情報です。既に雇用が確定している場合もありますので、ご了承ください。
求人情報の詳細については、ハローワーク長井(☎84-8609)へ。

事業所名	職 種	求人数	勤 務 時 間
大和建設運輸(株)	大型トラック運転手	2人	8:00~17:00
日本重化学工業(株)小国事業所	電子材料の製造スタッフ	10人	8:15~17:15 他
社会福祉法人愛育福祉すみれ保育園	保育士	1人	7:15~16:15 他
UTエイム(株)	(派) 半導体用治具の製作用業	3人	8:20~16:50 他
新潟キャリアセンター			
玉川開発(株)	一般作業員	4人	8:00~17:00
齊藤建設(株)	一般作業員	2人	8:00~17:00
特定非営利活動法人まんまる	支援員【急募】	2人	7:00~18:30 の間の5時間
社会福祉法人小国福祉会	介護員・介護員【年度更新】	各1人	6:30~15:30 他
(有)三栄自動車工業	自動車整備士	2人	8:30~17:30
(有)コンズカンパニー 第一ホール小国店	ホールスタッフ	3人	8:30~16:15 他
遠藤建設(株)	一般作業員・土木施工管理技士	計3人	8:00~17:00
おぐに白い森(株)	応接員・調理員	計3人	7:00~19:00 他
荒川興業(株)	経理事務	1人	8:30~17:05
(株)山芳工務店	電気設備工	3人	9:00~18:00
(株)高橋商会	ガソリンスタンドスタッフ	1人	8:00~17:00 他
(株)横川建設	配送運転手・営業・事務員・現場管理(1級または2級土木施工管理技士)・作業員・自動車整備工・重機オペレーター見習い	計9人	8:00~17:00
長谷川工業(株)	NC旋盤オペレーター	2人	8:30~17:00
安部工業(株)	一般作業員	1人	8:00~17:00
(株)サニーサイドアップ	宿舎清掃【急募】	1人	8:00~20:00 の間の4時間程度
(有)白い森よこね物産品直売所 (小国道の駅)	販売及び調理スタッフ	2人	9:00~18:00 の間の5時間程度

※先月号掲載分以降に新規で登録された求人を掲載しています。
※町ホームページに求人情報を掲載しています。

今月の納税 2017.11

11月の税金等の口座振替は、次のとおりです。振替日の前日まで、指定の口座に入金してください。

●11月27日(月) 水道料

●11月30日(木)

国民健康保険税・後期高齢者医療保険料、介護保険料、下水道料、簡易水道料、住宅使用料、保育料、児童福祉使用料

■問合せ先

町民税務課税政管理室
(62-2403) へ

『この世界の片隅に』上映会

- 日時 11月11日(土)①10:00～②14:00～
- 場所 ①旧北部小中学校体育館
②旧沖庭小学校体育館
- 料金 一般1,000円、中高生500円、小学生以下無料。チケットは、アスモ内「まちの駅」で販売しています。なお、北部・沖庭地区在住のかたは無料でご覧になることができます。
- 主催 「この世界の片隅に」を小国で見る会
- 問合せ先 「この世界の片隅に」を小国で見る会事務局野口（090-9385-0789）または山中（080-8341-8939）へ

年末調整関係事務説明会の開催

- 日時 11月15日(水)13:30～（受付13:00～）
- 場所 おぐに開発総合センター
- 内容 年末調整のしかた、源泉徴収票・支払調書提出のチェックポイントなど
- 対象者 法人事務所および個人事業者
※青色申告を選択されている個人事業者のかたへの決算・年末調整関係事務の説明会は別途開催されます。
- 問合せ先 長井税務署調査部門
（☎0238-84-1934又は1944）へ

消費税の軽減税率制度に関する説明会

- 日時 11月15日(水)15:30～16:30
- 場所 おぐに開発総合センター
- 内容 消費税の軽減税率制度について
- 問合せ先 長井税務署調査部門
（☎0238-84-1934又は1944）へ

総合センター 図書室から

～新着図書～

- | | |
|---------------------|--------|
| ◇出会いなおし | 森 絵 都 |
| ◇AX アックス | 伊坂 幸太郎 |
| ◇忍物語 | 西尾 維 新 |
| ◇とるとだす | 畠 中 恵 |
| ◇信じてみたい 幸せを招く世界のしるし | 米澤 敬 |

休館日 毎週月曜日・祝日

～蔵書点検による休室について～

- 蔵書点検のため、11月20日(月)～11月29日(水)までの間、図書室を休室とします。
 なお、休室期間中の図書返却は1階の温泉受付、2階の教育委員会で承ります。
 ■問合せ先 教育委員会教育振興課
 （☎62-2141）へ

相 談

▽年金相談

- 日時 11月15日(水)
10:30～14:00
- 場所 役場
- 対応者 米沢年金事務所職員
- その他 事前に申込みが必要です。
- 申込・問合せ先 町民税務課住民窓口担当へ

▽人権相談

- 日時 ①11月15日(水)
10:00～12:00
②12月1日(金)〔特設日〕
10:00～15:00
- 場所 ①アスモ街なかギャラリー
②おぐに開発総合センター
- 対応者 町人権擁護委員
- 問合せ先 町民税務課住民窓口担当へ

▽消費者相談

- 日時 11月25日(土)
10:00～12:00
- 場所 役場
- 対応者 司法書士 舟山健蔵氏
- その他 事前に申込みが必要です。
- 申込・問合せ先 町民税務課町民生活担当へ

▽行政相談

- 日時 12月2日(土)
10:00～12:00
- 場所 役場
- 対応者 行政相談員 齋藤恒助氏
- 問合せ先 町民税務課町民生活担当へ

▽弁護士無料法律相談

- 日時 12月1日(金)
10:00～15:00
- 場所 おぐに開発総合センター
- 対応者 町顧問弁護士
- その他 事前に申込みが必要です。
- 申込・問合せ先 町民税務課町民生活担当へ



- 小国町役場 ☎62-2111(代)fax62-5464
- 行政管理室・情報危機管理室 ☎62-2112
- 企画財政室 ☎62-2264
- 白い森ブランド戦略室・移住定住促進室 ☎87-0821
- 国保医療担当 ☎62-2261
- 住民窓口担当・町民生活担当 ☎62-2260
- 税政管理室 ☎62-2403
- 商工観光室 ☎62-2416
- 農林振興室 ☎62-2408
- 会計室 ☎62-2406
- 建設管理室 ☎62-2431
- 建設技術室 ☎62-2432
- 議会事務局 ☎62-2448



戸籍のまど

(9月届出分)

誕生おめでとうございます。

緑 町和田 茉優花 (明愛 人美)

緑 町和田 奈々花 (明愛 人美)

叶 水中村 笹之介 (由 頰 梨)

兵庫 館川 井 菜 緒 (眞理 和枝)

おくやみ申し上げます。

- 驚 安部 喜栄子 (87)
- 叶 水 小野 かよ (94)
- 沼 沢 佐藤 進 (90)
- 岩 井 沢 横山 治子 (96)
- 西 田 村 清子 (84)
- 舟 渡 塚 原 美寿 (88)
- 伊 佐 領 船 山 長兵衛 (88)
- 岩 井 沢 色 摩 久子 (84)
- 伊 佐 領 高 橋 耕一 (87)

※この欄に掲載を希望しないかたは、届出の際にお申し出ください。

人口のうごき (平成29年9月30日現在)

人口	男	3,879人	(-3)
	女	3,955人	(-2)
	計	7,834人	(-5)
世帯数		3,094世帯	(+1)

編集後記

朝晩がとて寒くな
り、外に出て山々を見
渡すと飯豊・朝日の両
連峰の峰はうっすらと
雪化粧し、もう、すぐ
そこまで冬が来ている
のだと感じました。例
年より家の中に出てくる
インクサが少なく感じま
すが、今年はどれぐらい
の雪が降るのでしょうか。
この季節は一気に寒くな
り、体調を崩しやすい時
期になります。全国的に
インフルエンザワクチンが
不足しているようです。
風邪には細心の注意を
払いたいです。
(斎藤)

11月のあいイベント 小学生親子野球教室



- 日時 11月25日(土)10:00~12:00
- 対象者 小学生親子(子どものみ可)
子供用グローブ準備しています。
- 持ち物 室内シューズ、帽子、飲み物など
- 参加費 1人100円(保険料込)
- 申込締切 11月24日(金)

第9回Yuiスポーツすっぺスタ

- 日時 11月19日(日)9:00~
- 場所 町民総合体育館
- 内容 産直市場、onedaayカフェ、ソフトバレーボール大会、体験コーナー(ダンス、けん玉、工作コーナー、バランスボール、マシン使用法など)
- 参加費 ソフトバレー大会1チーム1,000円(男女各2名)
体験コーナー1教室100円
- 持ち物 飲み物など
- その他 詳細は事務局に問合わせください。
- 申込締切 11月16日(木)(ソフトバレー大会のみ)

■申込・問合せ
(☎62-5808)



薪釜でピザを作ろう

薪を燃料に、地元産食材を使ったピザ作りを通して身近にできる環境にやさしい取り組みを考えてみませんか。

- 日時 11月26日(日)10:00~13:00
- 場所 おぐに開発総合センター
- 内容 環境講座、体験講座「薪釜でピザ作り」、家庭の省エネチャレンジ
- 対象 置賜地域在住の親子(子ども:小・中学生)
- 定員 10組20人程度(申込順とし、定員になり次第締め切ります。)
- 参加費 大人・中学生500円、小学生300円
- 申込方法 申込書に必要事項を記載のうえ、FAXまたは郵送で申し込みください。申込書は町民税務課で配布しています。また山形県ホームページからもダウンロードできます。
- 申込締切 11月10日(金)
- 申込先 山形県置賜総合支庁保健福祉環境部環境課
(☎0238-26-6033/FAX0238-26-6037)へ

シリーズ

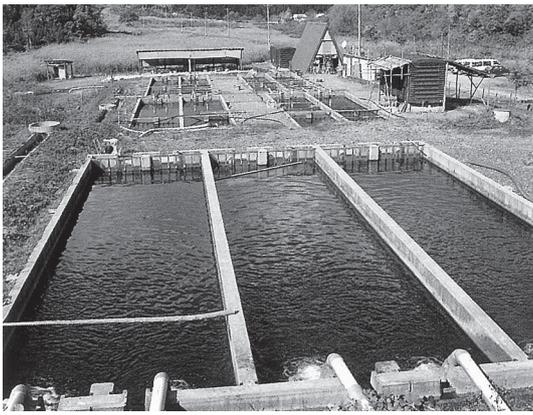
地域のブランド化とは

その⑦

岩魚の養殖

淡水魚の中で、ふ化、え付が最も難しいと言われているのが岩魚です。岩魚は、河川の上流冷水域に生息するサケ科の淡水魚で、養殖が確立される以前は、年々生息数が減少し「まぼろしの溪流魚」とも呼ばれていました。

本町で岩魚養殖に成功したのが小玉川地区です。小玉川



地区では、昭和40年代後半から2〜3人が農業の副業として岩魚養殖を始めました。

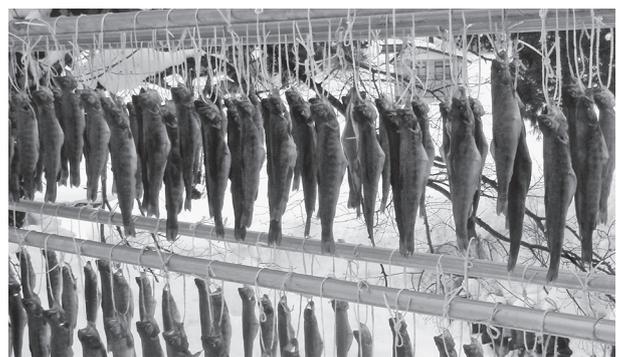
しかし、当時は岩魚の養殖技術が確立していなかったため大量生産することが難しく、なかなか軌道に乗せることはできませんでした。

岩魚養殖に取り組んだ1人である伊藤良一さん（小玉川）は、「当時の飯豊山荘では、安定的に手に入るニジマスを提供していたのですが、米沢市で岩魚養殖に取り組んでいたかたから『この場所のでいたかたから』この場所ので提供するならニジマスではなく岩魚だろう」と言われ、早速、稚魚を仕入れて提供を始めたのです。養殖を始めた年は、採卵の次の日に全ての卵が死んでしまい、視察にも行

きましたが、ふ化やえ付などの肝心なところは企業秘密。米沢のかたや県の内水面試験場などにバックアップをしてもらいながら研究を続け、3割で成功とされていたふ化率を昭和53年には7割まで上げることができました。そして昭和55年には、小玉川淡水魚生産組合を組織し3年間をかけて養殖施設の整備などが行われ、本格的な岩魚養殖がスタートしたのです。干ばつや水害、停電によって稚魚が死んでしまうなど様々な失敗もありましたが、こうした取り組みの中で岩魚干しや甘露煮などの2次加工品も作ることができたのです。」と話してくださいました。

幻と呼ばれた岩魚の養殖の成功によって安定的に生産が可能になり、ところのものをとらで提供し味わってもらう。さらに加工品として付加価値を付けたことで、地域内の経済の循環を生み出した養殖事業。

失敗を繰り返しながらも岩魚の安定的な提供のため、挑戦を続けてきた人たちの力と、小玉川という自然条件が導き成功した「岩魚の養殖」は小国ブランドと言えるのではないのでしょうか。



安定供給により冬季の寒風干も可能にした